

立命館経済学 第十一卷総目次 (昭和三十七年度)

論 説

号 頁

(遺稿) 差額地代と不当価値説……………白杉庄一郎 一・二……………一七(五七)

——山田説批判——

経済学研究の出発点にある哲学的課題……………梯 明 秀 一・二……………五(六)——六(九)

——四四年『手稿』におけるマルクス自身の思弁哲学についての分析的吟味として——

いわゆる使用価値の捨象にかんする一考察……………岡 崎 栄 松 一・二……………九七(九七)——一三三(三三)

——故白杉教授『価値の理論』によせて——

白杉独占理論の構造……………平 瀬 巳 之 吉 一・二……………一三三(三三)——一五(五六)

——特別剰余価値は独占利潤の源泉でありうるか——

『その意欲だにあらばオーストリアは万国を凌がん』……………出 口 勇 藏 一・二……………一七(五七)——一八五(八五)

——ヘルニク研究序説——

ヘーゲル市民社会論とマルクス……………細 見 英 一・二……………一八六(八六)——二三四(三四)

アイルランド羊毛工業の抑圧……………角 山 栄 一・二……………二三五(三五)——二五四(五四)

——イギリス重商主義論——

生産関係の国家的形態としての国家独占資本主義について……………井 汲 卓 一 一・二……………二五(二五)——一七六(七六)

人口と就業状況……………	坂 寄 俊 雄	一・二・三九(三九)―三〇三(三〇三)
——国勢調査結果による——		
経済と政治における自由の展生(一)……………	高 橋 良 三	三……一(三〇)―二(三〇)
——その史的概観——		
経済学研究の出発点にある哲学的課題(承前)……………	梯 明 秀	三……三(三三)―四(三五)
——四四年『手稿』におけるマルクス自身の思弁哲学についての分析的吟味として——		
戦後財政整理の性格……………	加 藤 睦 夫	三……四(三五)―六(三七)
イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(一)……………	松 田 弘 三	三……五(三七)―一〇(四二)
——ケムブリッジ大学におけるその近況を中心として——		
不換銀行券の本質……………	小 牧 聖 徳	四……一(四三)―一五(四五)
石炭危機の本質と石炭調査団の限界……………	戸 木 田 嘉 久	四……一六(四五)―五(四九)
中国国民経済の発展過程(一)……………	松 野 昭 二	四……五(四九)―九(五三)
——工・農業関係の発展を中心として——		
イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(二)……………	松 田 弘 三	四……四(五三)―一三(五六)
——ケムブリッジ大学におけるその近況を中心として——		
古典学派の二つの貿易理論……………	井 上 次 郎	五……一(五六)―一四(五九)
「労働の疎外」と「労働力の商品化」……………	清 水 正 徳	五……一五(六〇)―一六(六三)
——梯明秀教授の所説によせて——		
いわゆる「平均化原理」と「限界原理」……………	井 上 晴 九	五……六(六五)―九(六七)
——白杉理論への疑問——		

「経済学方法論」と統計方法……………	大橋隆憲	五・六……三六七〇—三六七三
「梯経済哲学」を生かすもの……………	平井俊彦	五・六……二六(七三三)—二五(七三五)
白杉価値論にかんする若干の考察……………	岡崎栄松	五・六……二五(七三三)—二九(七五四)
——いわゆる「効用測定の原理」を中心として——		
宇野氏「経済法則」論批判……………	吉村達次	五・六……二七(七五五)—二八(七七三)
独占的剰余価値と価値・価格理論……………	松田弘三	五・六……一八(七三七)—三五(八〇〇)
——平瀬教授の白杉独占理論批判の検討——		
財政制度論の一視点……………	加藤睦夫	五・六……三六(八〇〇)—三九(八二四)
——戦後初期における制度改革を中心として——		
EEC内部の国際分業法則について……………	清水貞俊	五・六……二〇(八二五)—二四(八六六)
——合意的分業の原理によせて——		
研 究		
わが国における割賦販売会計の理論(続)……………	桑原幹夫	三……一〇(四四四)—一三(四四三)
地域開発と欧州投資銀行……………	清水貞俊	四……二四(五六〇)—二四(五六五)